

平成28年度 第2回西区教育ミーティング 会議録概要

開催日時	平成28年11月24日(木) 午後1時15分から午後2時45分まで
会場	西区役所健康センター棟1階 大会議室
出席者	西区自治協議会委員 出席17名 教育委員 齋藤教育委員, 伊藤教育委員 学校長 新通小学校長, 坂井輪中学校長 事務局 教育総務課長, 地域教育推進課長, 学校支援課課長補佐, 坂井輪地区公民館長, 坂井輪図書館長, 西区教育支援センター所長 西区役所 西区長, 西区副区長, 地域課長, 地域課課長補佐 傍聴者 2名
議事	1 開会 2 出席者紹介 3 「全国学力・学習状況調査新潟市の結果について」事務局説明 4 質疑
自治協委員	西区は皆さん方や学校教職員の努力で, ここ2~3年前から成績が良い傾向になっていると思う。これは色々な地域事情もあると思うが, ボランティア活動や地域と学校が連携している成果と思い, お礼申し上げたい。
自治協委員	小学校関係では, 地域のボランティア活動に参加した割合が高くなっているが, 中学生になると地域の行事に参加する割合が低くなっている。これについては何か理由があるか。
教育委員会 事務局	地域行事については, 学校の方から特に働きかけはしていない。 地域で子ども達の参加を募りたい場合は, 学校に声をかけていただければ, 強制はできないが, 声掛けは出来るかと思う。
自治協委員	西区については, 全国や新潟市の中でも高い正答率となっている。これは保護者の支援と共に, 学校関係者が努力をされている結果であると, 地域住民として有難く思う。 地域行事に学校として特に働きかけをしていないというのは, 西区だけでなく全市的なものと考えてよいか。
教育委員会 事務局	地域行事に対する学校の取り組みは, 全市どこの区も同じと思われる。
自治協委員	アンケートで, 中学生の家庭での学習時間が全国から見てマイナスとなっているが, 今後どのような指導というか, 見解をお聞かせ願いたい。
教育委員会 事務局	指導主事研修会でも話題となった部分。中学生は部活等もあつて難しい。 いかに家庭学習の時間を確保していけるか, 教育委員会から学校へ提案できるように思案中である。

自治協委員	全国学力学習状況調査について。自分の地域に興味を持っているが、区のなかをどこまで細分して公表できるのか教えて頂きたい。
教育委員会事務局	各学校のものは、各学校で独自に出しているもの以外、他校のものは示すことはできないと考えている。
自治協委員	いじめの問題について、学校では生徒から相談があった場合、どのような取り組みをされているか。
教育委員会事務局	「いじめ防止対策推進法」ができて、かなり変わって来ている。 一昨年と昨年のいじめ認知件数では、新潟市では小学校が3倍以上、中学校が2倍以上に増えている。これはいじめ「認知数」であって、決していじめが増えたということではなく、それだけいじめを見逃さない、そういう取組が学校でできているということ。
自治協委員	いじめ認知件数が増えているのは新聞報道でも知っている。 いじめが起きた場合にひとりの先生だけに押し付けるのではなく、組織として、システムの先生の悩みを理解してあげる、そういった仕組みが出来ているかお伺いしたい。
教育委員会事務局	不登校等の問題行動については、組織で動くようにと学校には再三指導している。ただ現状として、自分の力で解決しようと思っている先生もいない訳ではない。 いじめを認知した場合には、管理職、学年主任、教頭、校長に上げて、組織で対応していかないと解決しない。関係機関、医療、福祉との連携体制も含めて、整えて行きたい。 いじめの相談を受けた時には、スーパーサポートチーム(SST)というものがあり、SSTとかSSW(スクールソーシャルワーカー)の専門家を配備してあっている。
坂井輪中学校長	いじめに関して、早期発見対策として生徒に年3回アンケートを実施して、そのうえで全校生徒を対象に、年3回教育相談を行っている。 生徒一人ひとりの普段の観察を大事にしながら、学年主任や生徒指導、養護教諭などに入ってもらい、週一回、不登校の対策会議を実施している。 学級担任がひとりで抱え込まないよう、組織的に対応している。
新通小学校長	基本的には全市と同じ体制。何かあったらその日のうちに家庭に連絡をし、学校と家庭が共通理解を図りながら問題に対応することを大切にしている。
自治協第2部会長	5 意見交換 【テーマについての説明】 ・パートナーシップ事業により、「人づくり」、「地域づくり」というねらいが達成されてきている。地域の教育力も上がってきていると感じている。 ・パートナーシップ事業が始まって10年、その中で学校の先生方も多忙化してきているという声も聞かれる。 ・忙しい学校と教育力の上がった地域と、どんなふうに関連して良好な関係を築いていけるか、「地域づくりと学校と調和のとれた連携をするために」を今回のテーマと

してみんなで考えていきたい。

視点①「地域と学校パートナーシップ事業の一層の活性化を目指しての課題と対策について」

自治協委員

先日行われた「中学校ミーティング」で、パートナーシップ事業の取り組みは地域教育コーディネーターの力量に負うところが多いと感じられたが、事務局としてどのような指導をされているかお伺いしたい。

また「学・社・民」の「民」の活用についてはどうか。声がかかれば協力は惜しまない。

教育委員会
事務局

地域教育コーディネーターの力量について、地域の要望が大きくなってきたり、学校が抱え込んだ事業などによって負担感が増えてきている現状がある。

これらの期待に応えられるように、地域教育コーディネーターの研修を実施している。

民の活用については、学校が地域教育コーディネーターにこんなことをしたいというビジョンをきちんと説明する中で、地域の方々や企業の方々から掘り起こしてもらい、そんな気づきがあれば良いと思う。

自治協委員

ある校長からお聞きした話として、学校が多忙になる原因の一つとして地域連携活動があると言われた。地域からの提案は素晴らしいが、全部受けるとパンクしてしまう。選択が難しい。

学校が一番多忙になるのは、いじめなどのトラブルが起きたときであると思う。そうしたことを未然に防ぐために、職員が子どもにしっかり目を向けてゆとりある時間を確保するために、行事やイベントもやるが、バランスをどうとっていくのかがこれからは大事。

新通小学校
長

基本的には、地域から協力して頂くことと、学校だけでやれることははっきりしていると思っている。そうした中で、お互いにウィン・ウィンとなるような関係を日ごろから築いていくことが大切と考える。

坂井輪中学
校長

学校の教育活動の中に地域の方から入って頂くのは、教育の一環として行うことであるので、それほど多忙とはならないと思っている。

中学生の場合は、地域の方に入って頂くよりは、中学生が地域に出ていって貢献をする、地域の方と関わることで大人になっていく、そのことが大切と考えている。

視点②「学校との調和の取れた連携活動の進め方」について説明

自治協第2部
会長

・西区では年に4～5回、コーディネーター同志が自主的な研修会を開催して情報交換を行っている。

・学校でも学力向上などが叫ばれている中で、色んな授業で先生方も忙しくなっていると思われる。

・その中で、地域と学校が調和のとれた連携活動をするために何が大切か、学校の事情を良く理解しつつ、話し合う場をもって共通理解を深めていくことが大切と感じている。

自治協委員	<p>当地区は、コミ協のメンバーとして校長から顧問として入ってもらっている。</p> <p>コーディネーターも自治会長も入っているので、共通理解のなかでスムーズに回っている。ボランティアの募集も、コミ協の協力などで上手く行っている。</p>
自治協委員	<p>パートナーシップ事業が始まって10年が経過し、教育を側面から支えて頂いている。ただその中で、ニーズの変化等もあるので、コーディネーターの役割と学校との兼ね合いについて、一度整理をしてはどうか。</p> <p>子どもの視点に立った話が聞こえて来ない。基本は学校と家庭と子どもでもある。</p> <p>多忙感と言う声もあるが、子ども一人ひとりとの、コミュニケーションの時間が確保されているのか伺いたい。</p>
坂井輪中学校長	<p>日常生活の様子を見る他に、計画的に全員の子どもと年3回面談をやっている中で、何かあれば話を聞くなどして、コミュニケーションは確保出来ている。</p> <p>また、子どもが何か頑張った時に褒める声掛けも、大切であると思っている。</p>
新通小学校長	<p>小学校も、子どもと担任との時間は、意図的に多くとるようにしている。</p> <p>1,000人を超える児童がいるが、子どもたちと担任は、きちんと関係を作るようにしている。</p>
自治協委員	<p>パートナーシップ事業の一層の活性化のためには、学校に協力するだけでなく、地域の人もその中で学んでいけるような工夫も大切で、そこを模索するのがこれからの課題と思う。</p>
教育委員会事務局	<p>パートナーシップ事業が目指しているもの、それは学・社・民の融合による人づくり、まちづくり、学校づくりである。この考えからいくと、一方的に地域が学校の応援団になるだけではなく、例えば学校の中で、地域の方に学びを提供する場があっても良いと思う。</p> <p>地域と学校が、歩調を合わせながら子どもを育てていく。その協働の場として、現に新潟市の中でも合同で防災訓練をやっているところもある。</p> <p>それは地域にとってプラスになり、学校にとっても身につけた知識を実践する場となり、両者のニーズが合致して素晴らしい事業展開となる。そのためにはお互いが合意できる場づくりが大事になってくる。</p>
自治協委員	<p>当地域は防災訓練も学校と協力して共同で行なっており、連携は上手く出来ていると思っている。</p> <p>学校との地域事業もあるが、ボランティアとも協力し合って有効な関係を築かないと長続きしない。</p>
○まとめ「意見交換を振り返って」	
坂井輪中学校長	<p>中学生の場合は、子ども達が地域で活動する場面を持って頂くことで、子ども達にも実践する力が確実に身につけてきていると思っている。</p> <p>これからもそういう場面を、無理のない範囲でお願いしたい。</p>
新通小学校長	<p>地域との連携活動を行う際に学校だけでやれること、地域から協力をお願いする部分など、地域の色々な方々と本音を言える良好な関係をこれからも築いていきたい。</p>

教育委員	<p>2年間西区を担当し、教育ミーティング、ウェルカム参観日など参加させていただいた。</p> <p>西区はコーディネーターを中心に、地域と学校が上手く連携して、素晴らしい成果をあげていると実感している。</p> <p>子ども達がやがて大人になり、今度は子ども達を育てていく立場になった時、皆さんの熱い思いが必ず心に残り、そしていい形で継承されていくものと思う。それぞれの立場で今後ともよろしくお願ひしたい。</p>
教育委員	<p>今日は校長先生方もお呼びして、活発な意見交換の中で、西区独自の区教育ミーティングが行われたことに大変感激している。</p> <p>コーディネーターばかりに頼るのでなく、私達一人ひとりに何が出来るのか気づきの場面もあった。</p> <p>西区のウェルカム参観日のひとつに、西内野小学校で食を通じた交流で、学校医が食の改善について、子どもにもわかるようお話されていたのが印象に残った。</p> <p>佐潟を初めて歩き、地域の魅力や子ども達の地域を育む郷土愛なども、重要な観点のひとつと思った。</p>
議 事	<p>6 閉会あいさつ(西区自治協議会第2部会長)</p> <p>教育委員からは、西区のパートナーシップ事業は、地域連携が素晴らしいとのお褒めの言葉も頂いて嬉しい限りである。</p> <p>パートナーシップ事業により、地域の方から、学校の外からでなく内側から苦情やお叱りやお褒めの言葉を頂いて、より身近で応援して頂けるようになった。</p> <p>これからも、地域の子ども達をみんなで育てていくという熱い思いでやっていきたい。</p> <p>本日は熱いご意見を有難うございました。</p>